



中北の地域社会 (community)の心の交流 (communication)をめざします

あきのおそびこうりゅうかい開催！(幼保小連携集会)

中央市立田富北小学校・幼保連携型認定こども園 みかさこども園

1年1、2組の教室では、季節感あふれるゲームコーナーに、目を輝かせた年長児さんが並んで待っています。

11月14日(火)に、田富北小学校(佐野 良校長)で、幼保小連携集会が行われました。今年度で7回目となるこの会は、「入学前に小学校を体験する機会を」と、みかさこども園の希望で始まりました。こども園からはお手紙を、小学校からは招待状を互いに渡し、きちんと準備をしてこの日を迎えているのです。

学年主任の中込里枝先生に、取り組みの様子を聞きました。田富北小では、秋を楽しむ生活科の学習にこの連携集会が組み込まれており、校外学習で行った金川の森や、校庭で集めた木の葉や実を使ってグループごとにゲームをつくったそうです。釣り糸の先に「オナモミ」をつけて葉っぱの魚を釣り上げるなど、工夫いっぱいです。1年生の子どもたちには、今まで学んだことを振り返ること、2年生になる自覚、仲間と協力して取り組むことを重視して学習指導・支援を行ってきたと話してくれました。

中村多恵子園長先生にも、みかさこども園で取り組んできたことを聞きました。園では、小学校を題材にした絵本を何冊も読み語りしたり、小学校の周りを実際に歩いてみたりと、「小学校へ行きたい気持ち」をふくらませるように支援してきたとのことでした。前半は1年生によるゲームコーナー、後半はみかさこども園が中心になっての体育館遊び「猛獣狩りへ行こうよ」と、共に運営するのがいいなと感じました。「猛獣狩りへ行こうよ」で、顔と名前を覚えてすっかり仲良くなった子どもたちです。バスに乗ってお別れする園児さんたちに一生懸命手を振り、名残惜しそうに見送る1年生の姿が印象的でした。



×切せまる！

スケジュール空いていますか？

第2回中北地区地域教育推進連絡協議会(1月25日)のおしらせ

和泉愛児園さんからのお蚕さんを軸とした活動報告、
 精神保健福祉相談員 芦沢茂喜さんによる、不登校・ひきこもりにかかわる
 講演会です。

1月17日が申込締め切り日です。(まだ間に合います！)

みなさまのご参加をお待ちしています。



趣味をひろげ、楽しんでいくということ

孢子の会

最後のまとめで、てるじい（梶原 照夫氏・孢子の会代表）が児童たちに語りかけます。「自然を大切にしてください。自給自足を心がけ、植物など何かを育てて欲しい。近いうちに必ずくる大きな災害に備えることや、地温暖化などの問題解決にもつながるよ。良いことをお家の人などに伝えるようにして。みんなの言うことには必ず耳を傾けるから。」

11月13日(月)に、甲斐市立竜王南小学校（長谷川 佳代校長）の3年生と、孢子の会8名のボランティアで八幡いも掘りが行われました。あいにくの曇天でおろしが肌を刺しますが、児童たちはとっても元気です。会の方々が収穫前の下準備の際、いもの葉をみて「今年は水不足で生



育が心配」と不安な様子。学校で借りている畑で5月に児童たちと植え付け、児童は水やりや草刈りをするも、孢子の会の方々が基本管理しています。（ここでは他に水田や野菜も育てます）さあ、収穫です。全体の司会や進行は込山 伸一氏が務めて下さり、他のメンバーといもを掘り進めていきます。

「収穫したいもは軽く地面に落とすと土がとれる。親芋は来年のために別にとっておくよ。」基本しっかりとすることを守り収穫が進むも、いもを何度も落としたり、親芋を埋め戻そうとしたり。子どもは楽しいです。思った以上に収穫量も多く皆満足の様子。



孢子の会は、元々地域の活性化や緑化保全が目的ではなく、趣味で仲間が出来て楽しんでいたらボランティアになったのだそうです。だからこそ継続し多岐の内容ある活動が可能なのでしょう。耕作放棄地でやはいもの栽培を広げるそうです。後継者不足に悩んでいるとか。一緒に楽しんでみてはどうでしょうか？

物語が出来るまで（学校ウェディング）

中央市立田富中学校

令和5年11月15日（水）に、田富中（戸田 徳和校長）の2年生を対象に、総合的な学習の時間を利用して職業体験として学校ウェディングが実施されました。この企画は全日本プライダル協会山梨支部が主催し、多くの協賛の下、年に県下で2校実施されるとのこと。田富中では2年前から要望し、やっと実現した実施希望が多い本格的なプログラムなのです。

「華やかな結婚式が成立するまで、当日を含めて様々な仕事の積み重ねが必要。その意味や完成した喜びも味わって欲しい」というねらいがあります。多くのブースが設定され、生徒は事前に選択したブースを3つ体験できます。各ブースにはプロが待ち受けており、ケーキづくり、花のアレンジ、音楽…この全てが本物でプロの指導が受けら



れるのです。メイクあり、ライフプランもあり、結婚は一大行事で、これほどまでに多くの人（職業）に支えられて成り立っているのだと実感させられます。当然このプログラムが相当な労力をかけて実施されていることもわかります。希望が多いわけです。先生が扮した新郎新婦の挙式でクライマックスを迎えたのですが、各ブースでの体験から、生徒たちには全く違う視点で見えていたのではないのでしょうか。

『体験前は「お金を稼ぐため」「やりがいのため」に働くと考えていたが、今回の体験を通して、「人のためになるような仕事をしたい」と思うようになった。』『結婚式には本当にいろいろな仕事があり、その仕事一つ一つにプロの方がいて、一人もかけてはいけないものだということが分かった。』（生徒の感想）『プロの方の仕事に対する姿勢や思いを身近で感じることで、「働くこと」や「生き方」について深く考える機会になりました。このような機会をいただけたことに感謝しています。』（長谷川2学年主任）

多くの人が充実し、たくさんの得がたい体験ができたと確信できるプログラムでした。

ボランティアのススメ

山梨県立韮崎工業高等学校

韮崎工業高校（飯島 慶一郎 校長）ではボランティア委員会が活動しております。3年生が甘利山に、2年生が夏・1年生が冬に要請を受けた場所へ赴き、環境美化などに汗を流します。この訪問ボランティアは1996年度有志でスタートし、ボランティア委員会としては平成20年（2018）年から始まった歴史があります。1・2年生の活動は、学校が韮崎市社会福祉協議会と連携し、地域包括支援センターなどへ声をかけて希望者を募り、要請があった場所に数名のチームに分かれて先生が引率する形を取っています。つまりは近所の困っている高齢者の手助けをする、福祉活動の意味合いもあるのです。



12月、冬の作業なので対象は1年生。朝学校に集合し、先生の車に分乗し出発。韮崎市神山町のお宅から樹木の剪定作業の依頼です。左の写真では分かりにくいですが、コンクリート壁から樹木が大分はみ出しており、それを大胆にさっぱりさせ、敷地内に収めました。当然敷地でも枝を落としています。皆剪定はやったことがないようですが、一生懸命です。落とした枝を袋に片付け終了です。飲み物の差入れをいただきました。参加した櫻井さんは「中学からの継続で、高校でも必ず活動すると決めて入学しました。作業は大変でしたが、仲間が作業中気遣ってくれたり、協力できたり、得るものが沢山ありました。家の方が喜んでくれたら嬉しい。」引率の若尾先生は「高齢者の生活が分かって良いです。活動から自分の祖父母を大切にしようと感じた生徒もいます。教育効果は高いですね。」

地道な委員会活動がしっかりと学校の魅力となっています。



親子しめ飾り教室 開催

峡中地区社会教育の会

12月10日（日）に、甲府市立東小学校（饗場 宏校長）において「親子しめ飾り教室」が行われました。しめ飾りは、玄関や部屋の入り口、神棚に飾るもので、神様をお招きする清浄な場所であることを示すために飾ります。正月事始【しょうがつことはじめ】の12月13日を過ぎた頃から、12月29日を避けた30日までに飾り、飾る期間は、地域・風習によっても違いますが、正月の松の内（1月1日から1月7日）までです。

今回は、縄の輪、わらのスカート、「謹賀新年」の札、御幣【ごへい】、うらじろ、末広（扇）、おかめの面、松竹梅の飾りを組み合わせて完成です。

苦戦するところは、縄作りです。12本のわらを右巻きに撚り1本にして、それを3本で左巻きにすると縄になりますが、なかなか大変です。そこで、峡中地区の教員OBで結成する峡中地区社会教育の会（石合 廣光会長）のメンバーが、親子のしめ飾り作りを支援します。

参加した子どもたちからは、「初めてで、わらを撚るのが難しかった。」「けっこう力が必要だった。」「仕上げりはきれいにできた。」「よいお正月が迎えられそう。」「との声が、保護者からは、「手伝ってもらってよかった。」「縄を3回もやり直した。大人と子どもで力加減が違うので難しかった。」「いつもは飾りを買って簡単に済ませるが、作ると難しかった。でも、楽しかった。」「との感想が聞かれました。皆、集中して作っていたので、あっという間の2時間でした。



#中北バトン

様々な立場から、子どもたちへの思い、地域への思いを語っていただきます。
今回は、南アルプス市保育所（園）連合会 会長 中込 早苗様です。

朝のふれあいの時間

「ショチョーセンサーおはようございます」事務室の前を早番の保育室から移動していく子どもたちの姿があります。

登所時、保護者から離れられず泣いている子、好きなテレビが見られなかったと言って床に寝転んでしまっている子等、毎日同じことの繰り返しにどうしたら良いかと日々悩んでいました。4月頃は声をかけても恥ずかしそうにうつむいて返事が返ってきませんでした。毎朝声掛けを行っているとうち長兄は「おはようございます」と言ってすぐに保育室に向かい、年少の3名の女子たちは、私がそばに行き話を待っています。「今日は何を食べてきたの？可愛い色の服だね。お肌がすべすべしてるね」等、他愛もない会話をすると「行ってきまーす」と言って満足げな顔で小走り保育室に向かいます。

出勤前の忙しい時間にイライラして子どもに大きな声を出してしまい、自らも落ち込んでいる保護者の気持ちはよく分かります。私も双子の子育て中は余裕が全くなく、もっぱら義父母任せでした。ちょっとでもギョッとすれば穏やかに登所することができたのではないかと、「先生すみません…」朝から謝らなくても済んだのに、と振り返ります。

最近事務室に寄っていく人数が増えて、一人ひとりとゆっくり話をする時間が短くなってきていますが、一言二言話ただけで満足して、促されなくても自ら保育室に向かうので安心しています。子どもたちが笑顔で穏やかに一日をスタートし、保育士が安定して保育ができるようこれからも毎朝のルーティーン、ふれあいの時間を大切にしていきたいと思います。

座学だけではないのです

山梨ことぶき勸学院

グラウンドゴルフをご存じでしょうか。クラブを使い硬質のボールをフラッグのついたホールポストに入れるというもの。標準のコースは、50m、30m、25m、15m 各2ホールの合計8ホールで構成されます。ゲートボールをイメージされた方もいると思いますが、全く異なるものです。

ことぶき勸学院は学びの場というイメージが強いと思いますが、教室での講座を離れての学習や地域貢献もあるのです。また教室での講座もアンチエイジングや健康を意識したものも少なからずあります。そのような中、教室内の交流、親睦、健康管理や体力づくりを狙い、グラウンドゴルフが実施されています。中北教室では白根中央公園（知る人ぞ知るグラウンドゴルフの聖地だとか）で、11月1日、晴天に恵まれ、むしろ暑さを感じる中で実施されました。（11月、甲府で28度を記録しましたね）綺麗に刈り揃えられた緑の芝がまぶしいくらいでした。初めての方も多かったようですが、案外打数には大きな差もつかず、皆、爽やかな汗をかきながらのプレーとなり、充実した一時を過ごしました。仲間とのアフターランチも美味だったことでしょう。



安藤家住宅（南アルプス市）の施設見学前には清掃の奉仕活動を行いました。流石に人生の達人達の集中力、あっという間に落ち葉を詰めたゴミ袋の山が出来ていました。

様々な場面で活躍する勸学院生。あなたも山梨ことぶき勸学院の来年度の入学生として、人生100年時代と一緒に楽しみましょう。



山梨ことぶき勸学院では、生涯学習のニーズに対応し、令和6年度の学生を募集します。

- 修業年限：2年
 - 講座日：原則金曜日（半日）
 - 費用：基本学習費16,000円
 - 出願期間 令和6年2月1日（水）～3月15日（金）（定員になり次第締め切り）
 - 入学案内・募集要項：令和6年1月下旬頃から、各市町村の教育委員会や教育事務所などで配布予定
- お問い合わせ先 山梨ことぶき勸学院 電話 055-233-6947